

HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供と利用状況の解析

研究分担者：佐野 貴子（神奈川県衛生研究所 主任研究員）

研究協力者：今井 光信（田園調布学園大学）、近藤 真規子（神奈川県衛生研究所）、
須藤 弘二（慶應義塾大学医学部）、加藤 真吾（慶應義塾大学医学部）、
星野 慎二（特定非営利活動団体 SHIP）、井戸田一朗（しらかば診療所）、
清水 茂徳（東日本国際大学）、杉浦 太一（株式会社 CINRA）、
市川 誠一（人間環境大学看護学研究科）

研究要旨

保健所等の HIV 検査相談施設や HIV 検査に関する最新情報、HIV/エイズの基礎知識などを継続的に提供し、国民の HIV/エイズへの理解促進や検査希望者の受検サポートを目的としたホームページ「HIV 検査・相談マップ」（<http://www.hivkensa.com>）の管理・運営を行った。本サイトによる情報提供の効果を調査するため、サイトアクセス解析と受検者および検査担当者へのアンケート調査を行った。また、本年度は外国語ページ（8か国語）の新規作成を行った。

年間サイトアクセス数は、2016 年は約 151 万件であり、2015 年の約 186 万件と比較して 19% 減となった。情報端末別では、スマートフォンからの訪問数は、2016 年は約 122 万件であり、総アクセス数の 81% を占めた。訪問者別割合は、新規訪問者が 63%、リピーターが 37% で、約 4 割は複数回利用していることが分かった。月別アクセス数は、2016 年は毎月 11~14 万件とほぼ横ばいで推移しており、突出してアクセス数が多い月は見られなかった。日別アクセス数でも 2016 年 11 月 30 日の STI/HIV 検査啓発資材（セーラームーン）の報道のみ 18,178 件/日となっており、年間を通して 5,000 件を超えた日は 26 日しかなく、2016 年は国民に対して HIV/エイズの関心を引くニュースが少なかったことが示唆された。

受検者の HIV 検査情報の入手方法を調査するために、MSM 対象の特設検査会で実施されたアンケート調査結果を解析したところ、35% は当サイトから情報を入手していたことが分かった。また、HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査において、本サイトの利用状況等を保健所 HIV/エイズ対策担当者に聞いたところ、担当者の約 9 割は当サイトを閲覧したことがあり、約 8 割は HIV 検査相談事業に役立っているとの回答であった。

2001 年の開設から 2016 年末で 1,702 万アクセスを超え、現在も多くの方に当サイトを利用いただいている。当サイトは、日本赤十字社での献血者への配布文書や自治体サイト、啓発用パンフレット等において多方面で紹介されており、行政的にも有効活用されている。検索エンジンでも HIV/エイズ関連検索で常にトップに表示されており、厚生労働省の研究班が提供している信頼性の高いサイトとして多くの方に利用されていると考える。その結果、自治体等で実施されている HIV 検査相談事業にも寄与しており、その展開・発展に不可欠なツールとなっている。今後も正確で最新の HIV 検査情報を提供していくとともに、更なる HIV/エイズの理解促進と、受検アクセスの向上に寄与したいと考えている。

A. 研究目的

保健所等の HIV 検査相談施設の情報や HIV/エイズの基礎知識などを継続的に提供し、検査希望者への情報提供・受検サポートや HIV/エイズの理解促進を目的としたホームページ「HIV 検査・相談マップ」(<http://www.hivkensa.com>) の管理・運営を行った。また、アクセス解析やアンケート調査を行い、サイト利用状況等の調査を行った。

B. 研究方法

1. 新規情報掲載、情報修正作業

保健所等 HIV 検査相談施設で実施されている常設検査情報や不定期に実施される検査イベント情報、また、HIV/エイズに関する基礎知識等について、ホームページ「HIV 検査・相談マップ」(PC サイト、スマートフォンサイト、携帯電話サイト) に掲載し、情報提供を行った。PC サイトは 2001 年 9 月に開設、携帯電話サイトは 2003 年 4 月に開設し、2009 年 10 月に PC サイトおよび携帯電話サイトともにリニューアルを行った。2013 年にはスマートフォンサイトを開設した。

定期のページ更新作業としては、新年度の検査日程等の情報確認のため、自治体等の詳細情報掲載施設に情報確認依頼文書を送付し、修正作業を行った。また随時の作業として、新規掲載、掲載情報修正、検査イベント情報の掲載等を行った。また、今年度は外国語ページ(8か国語+やさしい日本語)の新規作成を行った。

2. サイト利用状況の調査 — Web 解析 —

本サイトのアクセス解析には「Google Analytics」を用いて、サイトアクセス数(年別、月別、日別)、情報端末別訪問数、新規・リピーター割合、検索都道府県別のアクセス数、参照元からのアクセス数等を調査し、利用者の動向、HIV/エイズ報道によるアクセス数の影響等を調査した。また、検索エンジン(Google、Yahoo! JAPAN、bing)における検索用語順位解析には「検索順位ツール GRC」を用い、HIV/エ

イズ関連キーワードのによる検索順位を解析した。

3. サイト活用状況の解析 — アンケート調査 —
特設検査施設(MSM 対象検査会)の受検者および保健所 HIV/エイズ担当者に対しアンケート調査を実施し、サイトの活用状況を解析した。

C. 研究結果

1. 新規情報掲載、情報修正作業の状況

2016 年は保健所等 HIV 検査相談施設 664 箇所の掲載を行った(図 1)。検査イベント情報の掲載依頼は 186 件、情報修正依頼は 373 件であり、2015 年より 1~2 割依頼数が増加した。

今年度は新たに外国語ページ(英語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、中国語、タガログ語、韓国語、ベトナム語、やさしい日本語)を作成した(図 2)。内容としては、HIV 検査についての解説、検査施設紹介、電話相談リストの掲載を行った。

2. サイト利用状況の調査 — Web 解析 —

PC サイト、スマートフォンサイト、携帯電話サイトでの 2001 年からの合計アクセス数は約 1,702 万件となった(図 3)。2016 年の年間サイトアクセス数は約 151 万件であり、2015 年の約 186 万件と比較して 19% 減となった。情報端末別で見ると、スマートフォンからのアクセス数は、2016 年は 122 万件であり、総アクセス数に占める割合は 81% となった(図 4)。2015 年は約 144 万件、78% であったことから、2016 年のスマートフォンからのアクセス数は 15% の減少となっていたが、利用割合は増加していた。一方、PC からのアクセス数は前年比 27% 減、携帯電話経由は 55% 減となり、どちらの端末も年々減少傾向が続いていることが分かった。訪問者別割合は、新規訪問者が 63%、リピーターが 37% で、約 4 割は複数回利用であった(図 5)。月別アクセス数は、2016 年は毎月 11~14 万件とほぼ横ばいで推移しており、突出してアクセス数が多い月は見られなかった(図 6)。日別訪問数をみると、2016 年で一

番アクセス数が多かった日は、11月30日のSTI/HIV検査啓発資材（セーラームーン）の報道で18,178件であった（図7）。この啓発資材にはHIV検査・相談マップのサイトアドレスも掲載された（図8）。2016年に一日のアクセス数が5,000件を超えた日は合計で26日であり、前年の107日と比べて4分の1と少なかったことが分かった。都道府県別の検索アクセス数では、東京都が最も多く、次いで大阪府、神奈川県、愛知県、埼玉県、兵庫県と続き、ほぼ人口順であった（図9）。

参照元からのアクセス数を見たところ、Google検索が一番多く約71万件、Yahoo! JAPAN検索が約43万件、直接アクセスが約17万件であった（図10）。チャンネル別のアクセス割合を見ると、検索エンジンからのアクセスが77%、直接アクセスが12%、他サイトからのアクセスが11%、SNSからのアクセスが0.5%であった（図11）。他サイトのリンク元からのアクセス数を見ると、「はじめての性病検査（<http://self-medical.info/>）」からが約4.9万件と最も多かった（図12）。また、ゲイ向けサイトが上位10位中5サイトあり、MSMの方にも利用されていることが示唆された。公共サイトに限ってリンク元を見たところ、「東京都福祉保健局（<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp>）」が5,502件、「東京都南新宿検査相談室（<http://www2.tmsks.jp/>）」が1,489件と多かった（図13）。

検索エンジン（Google、Yahoo! JAPAN、bing）における検索用語別表示順位を調べたところ、検索用語が「HIV」では1位、「エイズ」では2～3位であったが、「AIDS」では15位であった（図14）。「AIDS」と「検査」の検索用語を組み合わせると1位となった。

サイト内の「お問い合わせ」フォームからの問い合わせ内容としては、受検した検査施設の不安、苦情、要望（注射器・手袋からの感染不安、検査施設の対応、予約が取れない等）やHIV

検査を受けるにあたっての質問（結果通知の方法、性感染症検査、聴覚障害者の受検）が多く、その他、リンク・アドレス紹介・内容引用希望、検査結果の解釈について等があった（図15）。

3. サイト活用状況の解析 — アンケート調査 —

受検者、特にMSMの方のHIV検査情報の入手方法を調査するために、2015年9月から2016年12月に特定非営利活動法人SHIPで行われたゲイのためのエイズ・性感染症検査において、SHIP検査の情報をどのように得たかを聞いたところ、SHIPのホームページからが53%、HIV検査・相談マップからが35%、9モンスター（MSM向けサイト）が14%であった（図16）。

全国保健所および特設検査施設に対して実施したHIV検査相談に関するアンケート調査において、本サイトの利用状況等に関する質問をHIV/エイズ対策担当者に質問したところ、「当サイトを閲覧したことがあるか」の設問に対しては、「ある」との回答は保健所94%、特設検査施設100%であり（図17、18）、「当サイトが事業に役立っていると思うか」の設問では、「思う」が保健所81%、特設検査施設100%であった（図19、20）。

D. 考察

本年度は、外国人の方へも広く日本のHIV検査情報を提供できるよう、外国語ページの作成を行った。今後、利用状況を把握するためにアクセス数等を注視していきたい。

2016年のサイトアクセス数は約151万件であり、2015年の約186万件と比較して19%減となった。月別アクセス数でも毎月11～14万件とほぼ横ばいであり、日別アクセス数でも、2016年11月30日にSTI/HIV検査啓発資材（セーラームーン）の報道で一日に約18,000件のアクセスがあった以外には、突出してアクセス数が高い日は無かった。年間を通して、5,000件を超えた日は26日しかなく、2016年は国民に対してHIV/エイズの関心を引くニュースが少なかったことが示唆された。

参照元からのアクセス数をみると、検索エンジンからのアクセス数が全体の77%を占めており、「HIV」や「エイズ」の検索キーワードで高順位に表示されることから、本サイトへのアクセス誘導に結びついていると思われた。また、2012年度に作成したMSM向けバナーを設置していただいているサイトからのアクセス数もあることから、MSMの利用率が高いサイトにバナーを設置してもらうことで、感染リスクの高い層へのアプローチが可能になると考えた。

サイト内の「お問い合わせ」フォームへの問い合わせ内容では、受検した検査施設の不安や苦情や HIV 検査を受けるにあたっての質問が多かった。問い合わせに関しては、可能な限り研究班から発信者に返信を行い、正確な情報の提供と過剰な不安の軽減に努めた。

受検者、特にMSMの方のHIV検査情報の入手方法を調査するために、特定非営利活動法人SHIPで行われた「ゲイのためのエイズ・性感染症検査」において、SHIP検査の情報をどこで得たかを調査したところ、SHIPのホームページを直接見て情報を入手した方が53%であったが、当サイトから情報を入手した方も35%いた。このことから、MSMの方も当サイトを利用してHIV検査を受けていることが分かった。また、全国保健所および特設検査施設に対して実施したHIV検査相談に関するアンケート調査において、本サイトの利用状況等に関する質問をHIV/エイズ対策担当者に質問したところ、「当サイトを閲覧したことがあるか」の設問に対しては、「ある」との回答は保健所94%、特設検査施設100%、「当サイトが事業に役立っていると思うか」の設問では、「思う」が保健所81%、特設検査施設100%であり、当サイトは自治体HIV/エイズ担当者に認知されており、HIV検査相談事業に寄与していることが示唆された。

2001年の開設から2016年末で1,702万アクセスを超え、現在も多くの方に当サイトを利用いただいている。当サイトは、日本赤十字社での献血者への配布文書や自治体サイト、啓

発用パンフレット等において多方面で紹介されており、行政的にも有効活用されている。検索エンジンでも HIV/エイズ関連検索で常にトップに表示されており、厚生労働省の研究班が提供している信頼性の高いサイトとして多くの方に利用されていると考える。その結果、自治体等で実施されている HIV 検査相談事業にも寄与しており、その展開・発展に不可欠なツールとなっている。今後も正確で最新の HIV 検査情報を提供していくとともに、更なる HIV/エイズの理解促進と、受検アクセスの向上に寄与したいと考えている。

E. 結論

ホームページ「HIV 検査・相談マップ」(<http://www.hivkensa.com>)を運営し、保健所等 HIV 検査相談施設の最新情報や HIV 検査に関する基礎知識等の情報を継続的に提供した。また、アクセス解析から、利用状況や閲覧ページの動向等を調査した。

本年度はサイトへの訪問数が約 151 万件と前年比 2 割減となったことから、国民の HIV/エイズへの関心の低下が危惧される。アンケート調査結果からは受検者と保健所担当者の双方が当サイトを活用していることが分かり、当サイトの保健所 HIV 検査相談事業への寄与が示唆された。本サイトアドレスは日本赤十字社での献血者への配布文書や自治体サイト、啓発用パンフレット等にも多方面で紹介されており、行政的にも非常に有効利用されている。

F. 発表論文等

1. 論文

なし

2. 学会発表 (国内)

- 1) 佐野貴子、須藤弘二、星野慎二、井戸田一朗、杉浦太一、清水茂徳、近藤真規子、加藤真吾、今井光信、市川誠一、HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供およびサイト利用状況の解析。第 30 回日本エイ

ズ学会学術集会・総会、2016年11月24-26日、鹿児島。

- 2) 近藤真規子、佐野貴子、吉村幸浩、立川夏夫、岩室紳也、井戸田一朗、山中 晃、武部 豊、今井光信、加藤真吾。中国のMSM間で大流行しているHIV-1 CRF01_AE variantの日本国内への拡散。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月24-26日、鹿児島。
- 3) 星野慎二、井戸田一朗、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾。全国保健所における梅毒検査体制のアンケート調査。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月24-26日、鹿児島。
- 4) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、木村 哲、加藤真吾。HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査(2015)。第30回日

本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月24-26日、鹿児島。

- 5) 加藤真吾、須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、藤原 宏、長谷川直樹。CDCが推奨するHIV検査手順の検討とHIV-1/2鑑別検査キットGeeniusの検討。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月24-26日、鹿児島。

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

図1

ホームページの施設情報、検査イベント情報、 情報修正依頼件数

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
掲載依頼						
施設情報	645	663	664	666	666	664
検査イベント情報	111	173	200	177	157	186
情報修正依頼	379	377	462	591	345	373

図2

外国語ページの作成

- 英語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、中国語、タガログ語、韓国語、ベトナム語、やさしい日本語で作成

外国語対応	英語	ポルトガル語	スペイン語	タイ語	中国語	タガログ語	韓国語	ベトナム語	やさしい日本語
HIV検査について の解説	説明文 と図	図のみ	図のみ	図のみ	図のみ	図のみ	図のみ	図のみ	説明文 と図
検査施設 紹介	8か所	2か所	3か所	3か所	1か所	1か所	3か所	1か所	×
電話相談	8か所	3か所	3か所	4か所	1か所	2か所	1か所	1か所	×

図1：HIV検査の受検から結果を聞くまで

図2：HIV検査の流れ（通常検査、即日検査）

図3

サイトアクセス数（2001年-2016年）

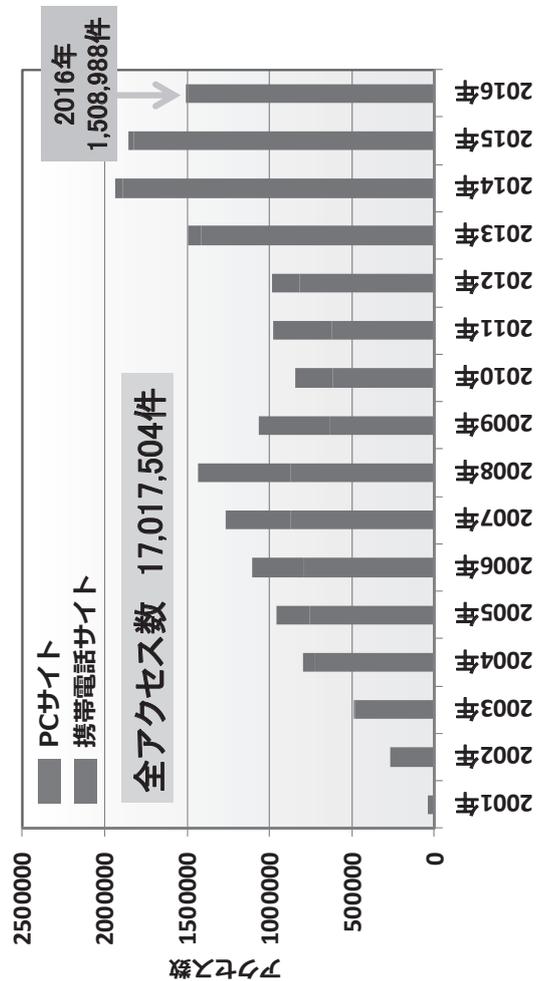


図4

情報端末別訪問数の推移（2010年-2016年）

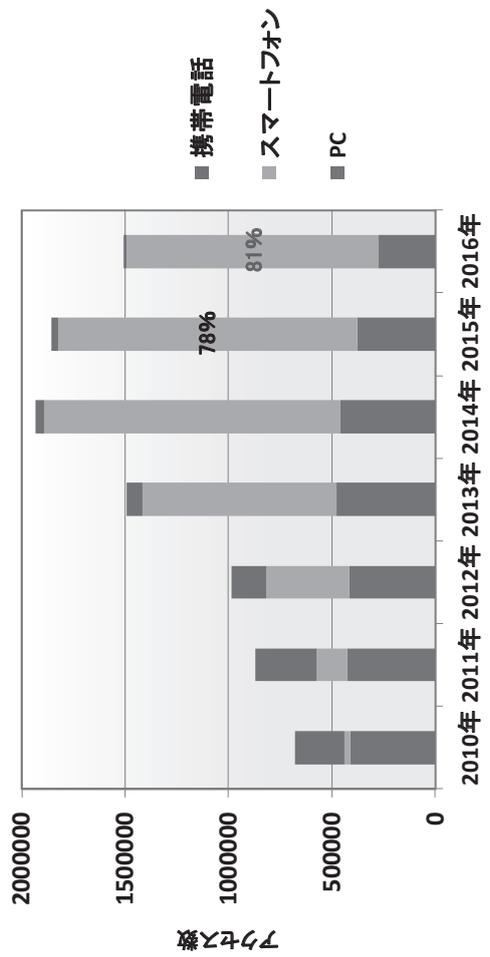


図5

訪問者(新規・リピーター)割合

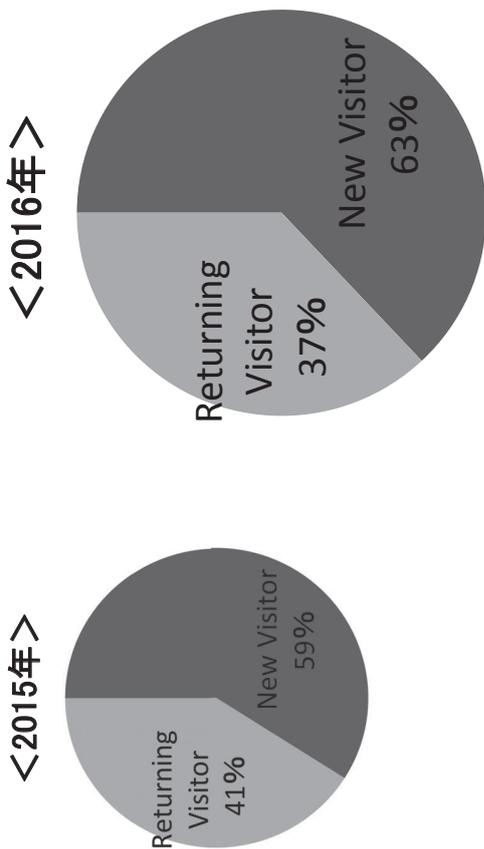


図6 月別アクセス数の推移 (2011年～2016年)

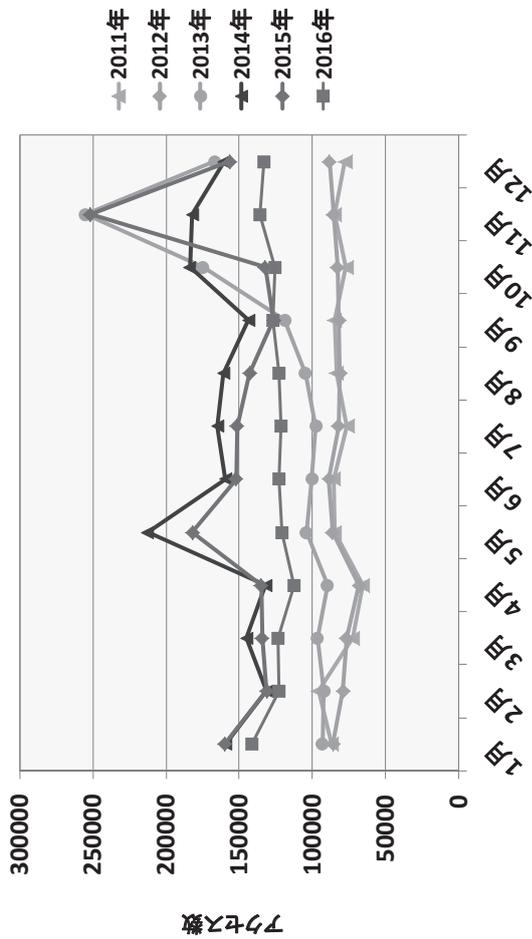


図7

日別訪問数 (2015年、2016年)

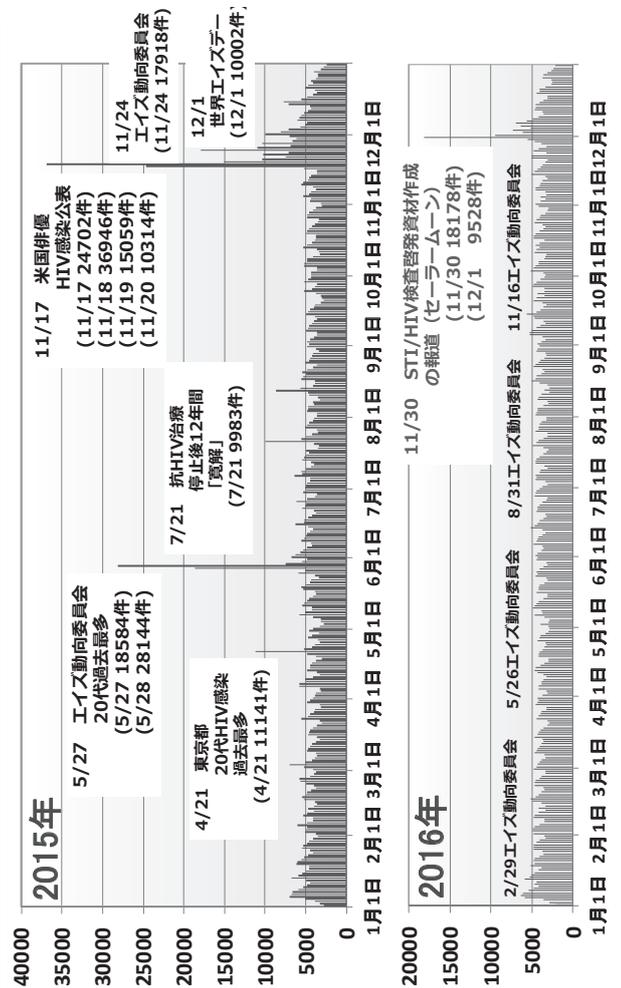
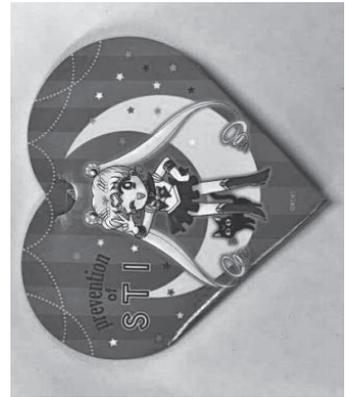


図8

STI/HIV検査啓発教材でのサイトアドレシ紹介 (厚生労働省結核感染症課) 2016年11月21日



STI(性感染症)・HIVは 早期発見・治療が大切です。 検査や治療が2ヶ月も遅るとなると、治療に時間がかかり、 必ず検査・相談できる機関を特記して見よう。▶▶▶

HIV検査相談マップ <http://www.hivkensa.com/>

コンドームの適切な使用により感染のリスクを減らすことができます。

図9

検索都道府県別アクセス数 (2016年)

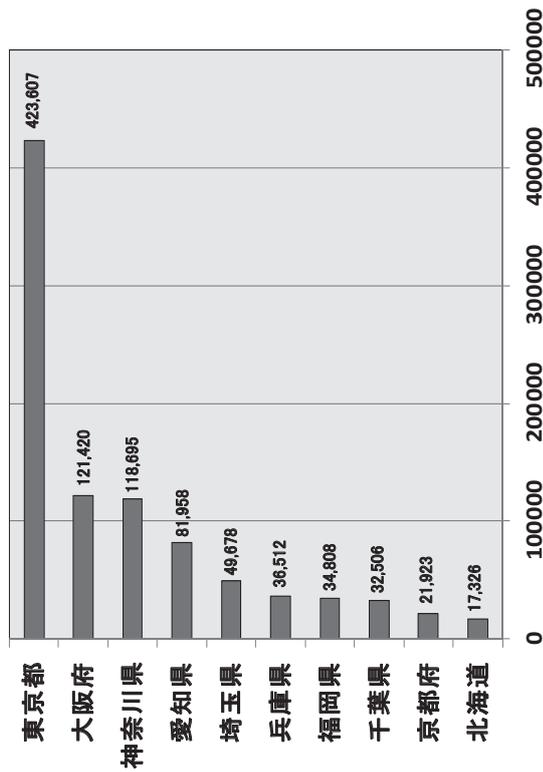


図10

参照元からのアクセス数 (2016年)

順位	参照元	アクセス数
1	Google 検索	706,162
2	Yahoo! JAPAN 検索	430,337
3	Direct access	173,607
4	はじめての性病検査 リンク	48,914
5	Yahoo!ニュース・知恵袋 リンク	20,836
6	bing 検索	20,118
7	ドコモ 検索	15,890
8	HIV感染症(エイズ)の検査・症状100問100答 リンク	13,348
9	東京都 リンク	5,502
10	au 検索	4,701

図11

チャネル別アクセス割合 (2016年)

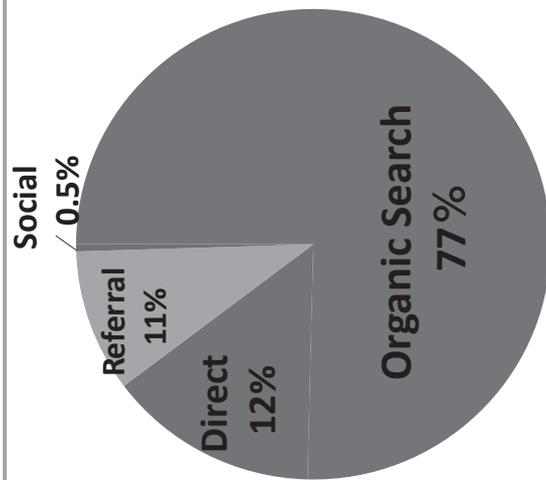


図12

リンク元からのアクセス数 (2016年)

順位	参照元	アクセス数
1	はじめての性病検査	48,914
2	HIV感染症(エイズ)の検査・症状100問100答	13,348
3	東京都	5,502
4	KO MENS.TV *	3,433
5	Men's Net Japan *	1,908
6	G-men *	1,878
7	Twitter	1,537
8	東京都南新宿検査相談室	1,489
9	日本赤十字社	1,280
10	ハッテンナビ 東京*	1,130
11	カナジヨ <small>(女装子・ニューハーフ・男の娘専用の出会い系サイト)</small>	963

図13

公共サイトからのアクセス数 (2016年)

参照元	アクセス数
1 東京都福祉保健局	5,502
2 東京都南新宿検査相談室	1,489
3 日本赤十字社	1,280
4 HIVマップ	855
5 エイズ予防情報ネット	694
6 神奈川県	614
7 大阪府	556
8 性の健康医学財団	550
9 横浜市	508
10 厚生労働省	437

図14

検索エンジン 検索用語別表示順位

検索エンジン	検索用語順位 (2016年12月)			
	HIV	エイズ	AIDS	AIDS 検査
Google	1	2	15	1
Yahoo! JAPAN	1	2	15	1
bing	1	3	15	1

図15

問い合わせ件数・内容 (2016年)

2016 「HIV検査・相談マップへの」問い合わせ	37件
受検した検査施設の不安、苦情、要望 (注射器・手袋からの感染不安、検査施設の対応、予約が取れない)	9
HIV検査を受けるにあたっての質問 (結果通知の方法、性感染症検査、聴覚障害者の受検)	9
リンク・アドレス紹介、内容引用希望	8
検査結果の解釈について(HIV、HBV)	4
HIV検査・相談マップ紹介カード送付依頼	3
感染リスク・感染不安について	2
HIV陽性者の歯科受診について	1
郵送検査について	1

図16

SHIP検査でのアンケート結果 (2015年9月～2016年12月)

Q. 当検査を何で知りましたか? (複数回答) (n=162)

情報収集手段	回答者数	回答率
SHIPのホームページ	86	53%
HIV検査・相談マップ	56	35%
9モンスター	23	14%
HIVマップ	10	6%
クチコミなど	8	5%
MNJ	5	3%
パンフレットなど	3	2%
Mixi	0	0%
HuGs	0	0%
Mens Mixi	0	0%
テレビ・新聞など	0	0%
電話相談など	0	0%

図17

(2016年)

ホームページ「HIV検査・相談マップ」を
ご覧になったことはありますか？(保健所)

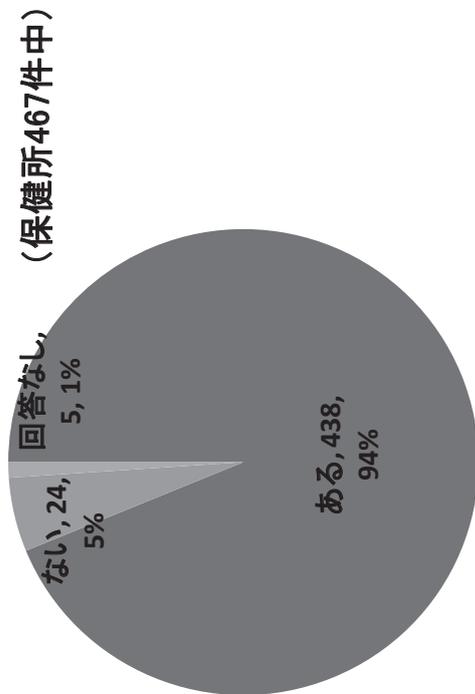


図18

(2016年)

ホームページ「HIV検査・相談マップ」を
ご覧になったことはありますか？(特設)

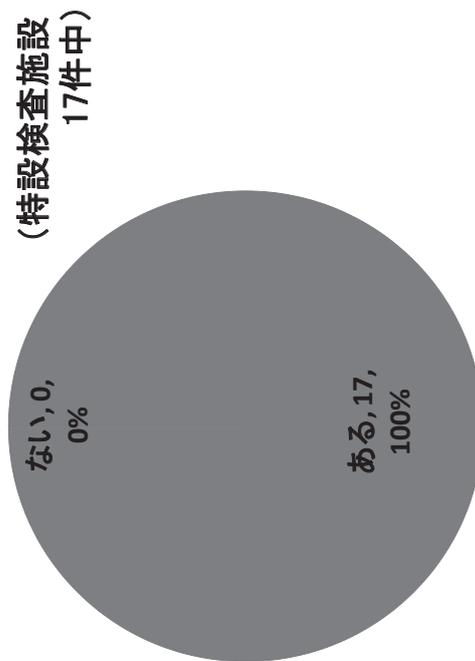


図19

(2016年)

「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に
役立っていると思いますか？(保健所)

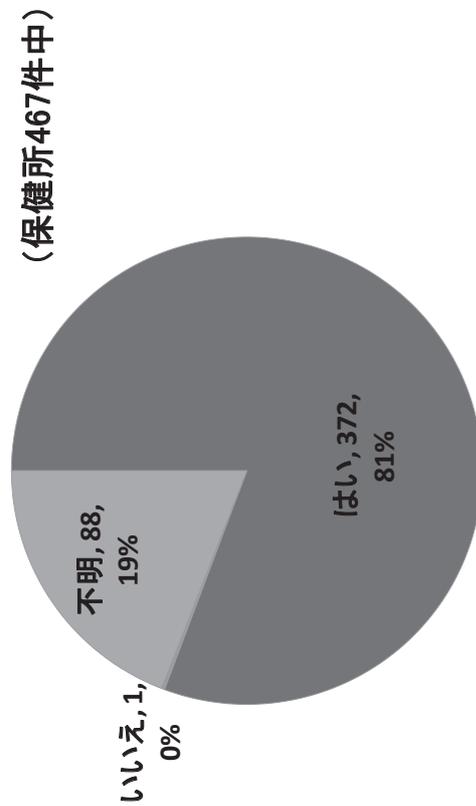


図20

(2016年)

「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に
役立っていると思いますか？(特設)

